



株式会社ガスコムノムラ
代表取締役
野村 守氏

株式会社サンジェニックス
取締役工場長
野原 芳樹氏

強味は…… きめ細かなメンテ体制と 地域活動を通じた 情報の受発信

株式会社サンジェニックスは、富山県南砺市を拠点に4つの工場を持ち、さまざまな電子部品や製品群を製造。代表的な製品としてはアザラシ型ロボット「パロ」^(※1)があり、テレビ番組で製造ラインが紹介されたこともあります。同社にとって良好な製造環境をGHPの提案によって実現したのが(株)ガスコムノムラで、すでに3回目のリプレイスを完了しています。

1枚の社員募集チラシから始まった GHPを通じた長い付き合い

全L協 ガスコムノムラさまとの付き合いはどのようなきっかけから始まったのでしょうか。

野原 野村さんとの出会いは25年前にさかのぼります。梅原第二工場が平成2年の3月に新築し竣工したのですが、その時に初めてGHPを設置していただいたのが最初ですね。

野村 当社は、850件のお客さまに対してGHPのほか家庭用と業務用を中心にLPガスを販売しています。地元を中心とした取り組みで、これまで約150台のGHPをご採用いただけてきました。

サンジェニックスさまに初めてご提案させていただいたのは、たまたま「ファイン電子(現サンジェニックス)来春工場新設従業員募集」というチラシが目に入り、



飛び込みでGHPを売り込みにいったのです。ところがすでに設計が終わり、空調はEHPに決定して着工も間近でした。そこでLPガス卸業者とアイシン精機の担当者を加えた三者一体の提案により、当時のファイン電子さまのご担当も「面白いかもしれない」と空調計画をGHPに変更してもらうことができたのです。

全L協 当時のファイン電子様が決まっていたEHPを変更してまでGHPの導入を決めたのは、どのような理由からでしょうか。

野原 野村さんの熱心なご提案に加え、信頼のおけるアイシン精機さんが開発している機器でしたし、何よりもGHPを設置

することで、多少イニシャルコストはかかるものの、ランニングコストが安くなり、契約電力を抑えられることは私たちのような企業にとっては大きなメリットでした。

また受電設備の小型化にも有効でしたし、夏場の電力ピークカットなど、企業として求められる社会貢献にも寄与できましたから。

3度のリプレイス受注につながった きめ細かな故障対応

全L協 初めてGHPを設置してから3度のリプレイスをなさいましたが、常にGHPを選んでいただいた理由は。

野原 基本的に工場は24時間稼働で、当初の予想よりは過酷な運転環境にありました。そんなこともあってか初期のGHPはかなり故障がちでした。しかし野村さんとメンテナンス会社にスピーディできめ細かな対応をしていただきました。結局、最初のGHPは7年間使いましたが、アイシン精機さんの提案で早めにリプレイスを実施しました。3回目のリプレイスで設置したGHPは



3回目のリプレイスでは、2台連結の「まどマルチ」方式を採用。2台連結させて運転時間が同じになるように自動制御。負荷が軽い場合は1台だけで運転することで経済的に運転できる。

完成度が高く、まったく故障はなくなりました。機械というものはどんなに性能がよくてもいずれ壊れるもの。そういう部分では、スピーディなメンテナンス対応力はとても大切。EHPはどちらかといえば遠方の業者さんなのに対して、GHPは野村さんが同じ町内にいらっしゃるの、何かあればすぐに駆けつけてくれるというのは心強い。安心してお任せできます。

全L協 工場において求められる空調の条件とはどんなことでしょうか。

野原 デリケートな電子部品の工場なので、年間を通して25℃を一定に保つ必要があります。このあたりは冬場寒く気温が0℃以下になることもしばしば。通常の空調だと寒ければ寒くなるほど、霜取り運転の時間が長くなって設定温度になるまで時間がかかるものです。その点、GHPはエンジンを回しているから暖気運転をしなくても室内機に霜が付きにくいので、寒い時、温度を一定にするにはとても効果的です。別の工場ではEHPも使っているから、そのメリットがよくわかるのです。

地域のつながりを生かして 大手企業にも勝てる関係づくり

全L協 GHPを提案するために、日頃から心掛けていることはありますか。

野村 常にアンテナを張って、店舗の新設や空き地に工事計画看板などがあるとすぐに営業に行っています。地元だから飛び込みでも話を聞いてもらえることが多いのです。また、私は、



若い頃より青年会議所、商工会青年部やさまざまなまちづくり団体に積極的に参加してきました。そこから人と人とのつながりができ、さまざまな情報がももらえたり、こちらからも世間話の中から暮らしに役立つ情報を発信したりしています。全国区の大きな企業と競合したとしても、地域で結ばれて

いる小さな会社が勝てる可能性は充分にあると思います。

全L協 今後はどのような取り組みをお考えですか。

野村 エネルギーの自由化が進む中で、しっかりと生き残っていくために、地元をしっかり根を下ろしたエネルギー会社であり続けたいと考えています。人と人との絆を大切に、地域貢献を通

じてこの町を盛り上げていくことが、商売の盛り上げにつながっていくと思います。そのうえで電気の小売も模索しつつ、エネルギーのベストミックス提案ができればいいですね。



メンタル^(※2) コミットロボット 「パロ」^(※1)

「パロ」は産総研が開発したアザラシ型ロボットです。(株)知能システムから委託を受け、サンジェニックスで製造しています。人のメンタル面に働きかけ、癒しをあたえてくれます。世界一の癒しロボットとしてギネスブックに認定されました。



(※1)「パロ」は株式会社知能システムの登録商標です。

(※2)「メンタルコミットロボット」は独立行政法人産業技術総合研究所の登録商標です。